

ばれっと

2011
8月
No.144

まだ*これ 合併号

●目次

- P2~3 仮設住宅での生活支援を行うNPO
- P4~5 地域で活動するNPO
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号⑤

仙台のまちづくりについて、多くの皆さんと語り合い、“何ができるか”を考える「せんだい市民カフェ」が、7月24日(日)に市民活動シアターで開催されました(主催 仙台市市民公益活動促進委員会・仙台市)。今回のテーマは「復興×若者×まちづくり」。3月11日の東日本大震災を乗り越え、これからの仙台の復興を担う若者たち約40名が集い、想いを自由に発表しました。

「せんだい市民カフェ」は今後、第2回、第3回と続いていく予定とのことです。詳細が決まり次第、サポセン館内等でお知らせします。



▲「せんだい市民カフェ」でアイデアを出し合う若者たち。(仙台市ホームページより)

■ご利用案内■

<開館時間>

平日 午前9時～午後10時
日曜・祝日 午前9時～午後6時
休館日 8月まで 毎月最終水曜日
9月から 第2・第4水曜日

●仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の一環として、9月30日(金)まで無料で貸室をご利用いただけます。

東日本大震災 ～その時～

仮設住宅での生活支援を行うNPO

一般社団法人 パーソナルサポートセンター

一般社団法人パーソナルサポートセンター（以下、PSC）は、さまざまな事情で安定した生活を送ることが難しい状態にある人たちに寄り添い、伴走型支援を行うことを目的に、高齢者、障がい者、女性、子ども、路上生活者支援など分野を越えた10団体が連携し、今年3月3日に設立されました。それぞれの団体が持つノウハウを活かし、資源を活用し、生活困窮者の福祉や医療などの社会的自立をサポートします。

PSCを設立して1週間後の3月11日、東日本大震災が発生しました。その後5ヶ月間、復興へ向けた支援活動をどのように展開していったのか、安心見守り協働事業部事務局長の後藤まつ子さんに伺いました。



▲青葉区二日町のPSC事務局の様子

■ 先行して動き出した各構成団体の支援活動

甚大な被害をもたらした震災の直後、PSCというよりも、構成団体（3ページ参照）がそれぞれ培ってきた経験、ネットワークを活かし、各々の支援活動に奔走していたと後藤さんは振り返ります。

後藤さんご自身も、震災後、当時所属していた「NPO法人ほっぷの森（※1）」のスタッフや利用者の安否確認などの活動と並行して、ホームレス支援活動を行う「NPO法人ワンファミリー仙台（※2）」の炊き出し活動を連日手伝っていたそうです。

その後、「NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク（※3）」など県外のネットワーク団体が、炊き出し用食材や生活物資、ガソリン等を運んできてくれたのをきっかけに、県内外の老人保健施設、障がい者・児童福祉施設、病院、指定外避難所などに食糧・物資を届ける活動を始めました。「高齢者や障がいのある人たちのことがとにかく気になった」という思いが、後藤さんたちを駆り立てました。物資を届けながら、地域のキーパーソンとつながり、ニーズとマッチングしていくなど、先を見据えた支援の必要性を感じていたそうです。

（上記※1、2、3は、すべてPSCの構成団体。3ページ参照）

■ PSCとしての活動 ～緊急支援のその先～

その後、「緊急支援のその先を考えながらPSCとして活動をしていくべきだ」という意見が団体内からも出始め、3月末には、仮設住宅入居者支援の事業化を検討し始めたそうです。そして4月初めに、仮設住宅で暮らす方々を支援する「安心見守り協働事業」を仙台市に提案、協働で実施していくことが決まり、6月から本格スタートしました。こうした素早い動きの背景には、「今まで仙台のNPOが行政

と培ってきた協働の土台があり、NPOの活動への信頼があったからこそ、緊急時の迅速な協働事業化が可能になったのではないかと後藤さんは言います。

「安心見守り協働事業」の内容の要は、仮設住宅への戸別訪問による見守り活動です。その活動を担う「絆支援員」は、国の緊急雇用対策事業で採用された被災地のみなさんたちです。毎日2人1組で入居者を訪ね、暮らしの様子や困っていることを聞いてまわります。また、入居者の顔合わせを兼ねたお茶会や、地元のNPOや商店街の協力を得て、仮設住宅でのお祭りなども開催しています。まずは、仙台市内で最も大きな仮設住宅地域である太白区のあすと長町（233戸）で、支援活動の基盤づくりを行っています。今後は、宮城野区、若林区にもある全18ヶ所（計1,505戸）の仮設住宅のニーズに合わせた支援活動を展開していく予定だそうです。



▲あすと長町仮設住宅で開催されたお祭り

事業の目的は、仮設住宅入居者同士の関係づくりをお手伝いし、阪神淡路大震災でも課題となった、仮設住宅生活における孤独死・自殺・社会的孤立などを防ぐことです。後藤さんは、「被災者は、避難所でたくさんのルールを守りながら窮屈な生活を送ってきた。仮設住宅では自発的なつながり、困ったときに自分からSOSを発することができるしくみ、孤立を防ぐしくみをつくっていきたい」と話します。

■ 震災前からの支援活動の経験を活かして

現在「絆支援員」は、19名。今後、事務局スタッフとあわせて約60名まで増員する予定です。PSC構成団体が協力して、社会福祉や被災者支援制度などについて、さまざまな研修を行っています。また、戸別訪問で寄せられた相談などは、必要に応じ、専門知識を持つPSC内の「暮らし再生プランナー」を介して、専門機関につなぎます。

後藤さんは、震災前に支援してきた、障がいのある方や生活困窮者が抱えるメンタルヘルス、就労などの問題に、今後被災者も直面するだろうと考えています。それらの問題に対し、今までの支援活動の経験を活かせることが、PSCがプレハブ仮設住宅入居者支援を行う強みです。「毎日の声掛けによって信頼関係を築き、ニーズを把握しながら、段階的な仕事づくり、高齢者の生きがいづくりなどを支援していきたい。また、仙台市以外の自治体で行っているプレハブ仮設住宅入居者支援事業などとも連携して、それぞれのニーズや研修のノウハウなどを共有し、よりよい支援につなげていきたい」と考えているそうです。

プレハブ仮設住宅入居者支援に取り組む一方で、PSCとして大きな課題だと感じているのが、仙台市内だけでも8,200戸以上にも及ぶ、民間賃貸住宅に暮らす被災者のことです。ニーズが潜在化して見え

にくいことから、支援の手が届きにくいのです。「民間でできることを摸索し、何かしらの対策を取りたい」と、後藤さんは意欲を燃やしていらっしゃいます。(真壁さおり)

■ 一般社団法人パーソナルサポートセンター

【代表者】 新里 宏二

【連絡先】 〒982-0802 仙台市青葉区二日町6-6
シャンボール青葉2階

TEL 022(399)9662 FAX 022(224)1621

【E-mail】 info-kizuna@personal-support.org

● 構成団体

- ・NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター
- ・NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター
- ・NPO法人仙台夜まわりグループ
- ・NPO法人チャイルドラインみやぎ
- ・反貧困みやぎネットワーク
- ・NPO法人萌友
- ・NPO法人 ほつぶの森
- ・NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク・グリーンコープ共同体被災地支援協働事業
- ・NPO法人MIYAGI子どもネットワーク
- ・NPO法人ワンファミリー仙台



▲事務局長の後藤まつ子さん

仮設のトリセツ

～仮設住宅を住みこなすための方法～
新潟大学工学部建設学科 岩佐研究室

新潟では、2004年から2007年の間に、水害や2つの地震に見舞われ、その際、多くの方が仮設住宅での生活を強いられました。岩佐研究室では、特に中越地震から得た経験や知識を基に、実際に仮設住宅にお住まいになった方々から教えて頂いた「仮設の知恵」をまとめました。住居者自らが少しずつ手を加え、住みやすい環境に作り変えてきた中越の先人たちの知恵を参考に、仮設住宅での暮らしを少しでも快適なものとするための一助として活用して欲しいと考えています。



「アイデアがいっぱい」
の
「仮設のトリセツ」



【代表者】 新潟大学 工学部 岩佐研究室

【連絡先】 新潟市西区五十嵐2の町8050

【E-mail】 iwasa@eng.niigata-u.ac.jp

【ウェブサイト】 <http://kasetukaizoujimdo.com/>

※サイトに記載している情報は印刷してご利用いただけます。う、PDFをダウンロードできるようになっています。

●地域で活動するNPO

NPO法人 冒険あそび場-せんだい・ みやぎネットワーク

再び、子どもたちの笑い声と 元気な姿が公園に戻るまで

NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークが指定管理者として管理運営を行っている「海岸公園冒険広場」。若林区井土地区は津波の被害を受け、貞山堀沿いの松林も無残になぎ倒されて見る影もありません。公園は、冒険あそび場や大型遊具がある高台部分は奇跡的に残っているものの、管理棟は一階部分がほとんど浸水し大きな被害を受け、公園周辺はガレキ置き場と化してしまいました。プレーリーダーの根本暁生さんと三浦忠士さんに公園を案内してもらい、お話をお聞きしました。

● 自然豊かな風景から一転して

震災があった3月11日当日は、根本さん、三浦さんともう一人のスタッフ渡辺さんが勤務。入口駐車場付近のデイキャンプ場で行われるはずだった、3月の催しの準備作業の最中でした。当日の来園者は、大人と子ども合わせて20人だったそうです。

地震発生時の午後2時46分、アスファルトが割れ、地面にヒビが入る音に驚いたといいます。さらに1、2分で、大津波警報を知らせるサイレンが鳴り響き、ただならぬ事態に、とにかく来園者全員を公園外に避難誘導し終えたのが午後3時過ぎでした。

そして、スタッフも避難を始めようとしたとき、地元の住民3人が、「指定避難所の六郷小に逃げたのでは間に合わない、ここが一番高台だ!」と、駆け込んできました。公園は指定避難所には指定されていませんでしたが、避難を受け入れることにしました。急いで一番高い所へ移動。周囲は、一面海に…。自分たちが慣れ親しんでいた集落が呑み込まれていく光景を見ながら、命の危険というよりは、「信じられない」という怖さのほうが強かったと、根本さんは当時を振り返ります。その後、自衛隊のヘリコプターで全員無事救助されたのが、午後5時過ぎでした。

●公園以外の場所でも出来ることを始めよう

何もかもが変貌した震災から5ヶ月過ぎた現在、公園の再開についてはまだ目処がついていません。震災直後は、この場所での再開は難しいと半ば諦めていました。しかし日が経つにつれて、「子どもたちの育ちを支える場として、思い切り自由に遊べる冒険あそび場の機能を維持していきたい。残されたものとしてのその役割を果たしていくことが必要だ」との思いが強くなり、再開に向けて全力で取り組んでいこうと決意したそうです。

5月1日から仙台市立六郷小学校で毎週日曜日に



▲冒険あそび場プレーリーダーハウスの前で
三浦さん(左)と根本さん

「六郷あそび場」を開催。「被災した子どもたちのケアには、大人の手助けも大事ですが、子どもが自身をケアするプロセスも大事なんです。子どもは遊びを通じて自らを癒す力があると信じています」と根本さん。子どもたちが表現する場と環境を整えるために、出張あそび場の活動を始めたのです。

● 海岸公園冒険広場の再開を望む声

年間17~18万人、開園から5年あまりで100万人を超えた利用者の方々からは、たくさんの応援のメッセージが寄せられています。直後に様子を見に来てくださった方のメッセージや、ホームページやブログを通じての励ましの言葉に支えられ、また、地域の方々や遊びに来てくれていた子どもたちからの公園再開を望む声に、勇気付けられているそうです。

震災後灰色だった風景も、夏を迎え植物たちが成長し一面緑色となりました。鳥や動物も自然の中で少しずつ動きだしています。「この震災の経験を経て、自らが被災したNPOとして、辛さ、無念さ、無力さをひしひしと感じています。しかし、子どもたちの笑い声を取り戻すために、このまま終わらせるわけにはいきません」と根本さん。再建へと歩みだす強い意志と使命感が伝わってきました。

(葛西 淳子)

NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎ ネットワーク

【代表者】 大村 虔一

【連絡先】 〒980-0803

仙台市青葉区国分町3-8-17

TEL&FAX 022(264)0667

10:00~16:00 月・日・祝休み

【E-mail】 asobo@coral.plala.or.jp

【ウェブサイト】 <http://www.bouken-asobiba-net.com>

地域で活動するNPO●

NPO法人 FOR YOU にこにこの家

活動によって作り上げた 地域の力で震災を乗り越える

NPO法人FOR YOU にこにこの家（以下、にこにこの家）は、「子どもも高齢者も障がいを持つ方も、地域みんなが気軽に集い、交流し、支え合う憩いの場所を実現したい。いつまでも住み続けたいと思えるまちに」という想いで、地域に密着した活動をされてきました。また、太白区にある東四郎丸児童館の指定管理者でもあります。今回は、理事長の小岩孝子さんにお話を伺いました。

● 地域住民をやさしく包んだ児童館

地震発生時は、東北工業大学長町キャンパスで会議中だった小岩さん。すぐさま児童館に戻ってみると、周囲では避難を呼びかける放送が鳴り響き大混乱。会う人ごとに「どこに逃げればいいのか？」と聞かれ「小学校か3階以上の高い所」と案内したものの、寒さなどもあって児童館に人がどんどん集まってきました。「児童館は避難所に指定されてはいないけれど、だからといって困っている人・不安な人を放っておけないとの思いでした」と小岩さん。

最終的に約230人が児童館に避難しましたが、まず、受付を設けて人の出入りを記録。車椅子の方がいる家族、小さな子どもがいる家族、ペットがいる家族など、グループ化して部屋割りをしました。このように受付記録をつけていたので、安否の問い合わせがきた時、非常に役立ったとのこと。災害に備えた講習会を開催した時に「HUG（注）」の経験があったので、落ち着いて対応できたと小岩さんはおっしゃいます。

● 地域のつながりによって支援が広がる

にこにこの家のスタッフの中から「自分たちは家も大丈夫だったし、他の方のために何かできないだろうか」と、自発的に提案がありました。当時、にこにこの家は水とガスが使えたので、炊き出しをすることになりました。材料は、みんなで家から持ち寄ったり、「これを使って」と地域の方がくださった食材を使ったそうです。また、日頃、にこにこの家に関するちらし等を折り込みしてくれる地元紙の販売店が「震災の情報伝言板」を発行することを知り、炊き出しの告知をしました。すると、さっそく地域の高齢者から「炊き出しを食べたいけれど、児童館まで行けない」との連絡があり、配達することで対応しました。「他にも同じような人がいるかもしれない」と地域包括支援センターに協力をお願いして地域の高齢者を紹介してもらったり、伝言板にも掲載し、多くの皆さんにお弁当を届けることができました。



▲炊き出しをする“Jr. にこにこボランティア”

● 子どもたちも大活躍

炊き出しやお弁当、物資の配達などでは、児童館やにこにこの家のイベントをお手伝いしてくれている“Jr. にこにこボランティア”を中心とする子どもたちのボランティアが大活躍しました。まだ余震も頻発する時だったので、子どもたちのボランティア活動は大丈夫だろうかかと小岩さんは心配していました。けれど「人の役に立つなら」と、むしろ親御さんたちが送り出してくれたそうです。子どもたちからは「本当のボランティアをした気がする」「“命を助けてもらった”って言われたんだ」という誇らしげな言葉があり、子どもたちにとっても大きな経験になったことは間違いありません。

日頃からの備えと、地域の方々と普段から顔の見える関係を築いてきたことが、今回の大震災を乗り越える原動力となりました。（菅野 祥子）

注：HUG（ハグ）＝避難所運営ゲーム

（Hinanzyo Unei Game）の略

英語で「抱きしめる」を意味するHUG。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられた。避難所運営をみんなで考えるためのひとつのアプローチとして、静岡県が開発。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲーム。ゲームを通して、避難所の運営方法を学ぶことができる。（静岡県HPより）

NPO法人 FOR YOU にこにこの家

【代表者】 小岩孝子

【連絡先】 〒980-1101

仙台市太白区四郎丸字神明16-2

TEL & FAX 022(241)0858

【E-mail】 nikoniko@w2.dion.ne.jp

【ウェブサイト】

<http://www.k4.dion.ne.jp/~nikoniko/index.htm>

市民活動サポートセンターからのお知らせ

■10月1日(土)からの一般利用再開に伴い、貸室申込受付を再開しています。

- 申込受付の開始日
 研修室：ご利用日の3ヶ月前から
 セミナーホール：ご利用日の6ヶ月前から
 市民活動シアター(全日)：ご利用日の6ヶ月前から
 市民活動シアター(区分)：ご利用日の3ヶ月前から
- 受付時間 平日/午前9時～午後9時
 日祝/午前9時～午後5時
 ※電話予約は、申込受付の開始日の午後2時から行います。
- なお9月から、第2・第4水曜日が休館日となります。

■現在は、震災後の復興まちづくり支援の一環として、貸室を無料でご利用いただいております。(9月30日(金)まで)

- 研修室、セミナーホール(無料)
 対象期間：9月30日(金)まで
 用途：打ち合わせ、会議、イベント、研修等
- 市民活動シアター
 復興支援活動のためのイベント等で、市民活動シアターも無料でご利用いただけます。
 対象期間：7月1日(金)～9月30日(金)
 ※先着順で受け付けております。
 詳細についてはお問い合わせください。
- シニア活動に関するご相談も受け付けております。
 相談時間：午前10時～午後5時

■9月から休館日が月2回となります

サポートセンターの建物は築20年以上経過し、施設内設備の点検や修繕に要する時間が増えてきております。施設内設備の点検、修繕のため、現在月1回となっている休館日を **2011年9月より月2回** とさせていただきます。

サポートセンターでは、利用者の皆さまに安心、安全にお使いいただけるよう今後も努めてまいりますので、何卒ご理解ご協力お願い申し上げます。

休館日は次のように変わります

■現在 毎月最終水曜日



■2011年9月より **毎月第2・第4水曜日**
 (9月の休館日 9/14・9/28)

※当該日が祝日にあたる場合は、翌日木曜日が休館日となります。

※年末年始休館は今まで通り12月29日～翌年1月3日です。

東日本大震災を受け、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOがサポセンをご利用いただく際は、事前に「復興支援活動団体利用受付シート」の提出をお願いしています。3月28日から7月31日まで、258団体からの利用受付シートのご提出がありました。

このシートは、サポセン1階に掲示し、ブログ等にも掲載します。

また、団体からのご要望に応じて、10日毎に発行している「サポセンかわら版」にも掲載いたします。団体活動の詳細はこちらをご覧ください。

●復興支援活動情報ブログ

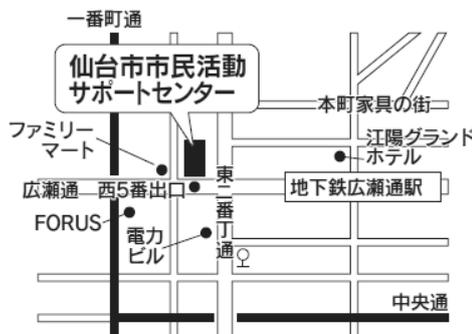
<http://blog.canpan.info/fukkou/>



■案内図

[最寄のバス停]
 電力ビル前
 商工会議所前

[地下鉄]
 広瀬通駅下車、
 西5番出口すぐ



■編集後記

震災から5ヶ月。仙台市では全ての避難所が閉鎖され、被災された皆さんは、仮設住宅や借上げ住宅に移って新たな暮らしを始めています。こうした方々を支えるため、新たな支援や、活動の復活へ向けて動き始めた仙台の市民活動団体・NPOを、サポセンとしてサポートしていきたいと思えます。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2011年8月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 真壁さおり

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]

★古紙再生紙を使用★大豆油インキを使用